

彼一語我一語秋深みかも

高浜 虚子

【校正漏れ】

今回はここ数ヶ月でありました、校正漏れの例を2点お知らせいたします。

① 次の文は一見正しく見えますが・・・。

子供がお母さんにしかられないように、おとなくし本を読んでいる。

あれ？と二度見をしてしまった方が多いのではないのでしょうか。

「おとなくし」ではなく「おとなしく」が正しいですね。

ひらがなだけが並んでいると、さらっと読んでしまうことが多いので気をつけたいです。

②次は文章を読んで問いに答えるものです。よく見ると・・・。

問1 次の文章は『枕草子』の冒頭からの抜粋です。これを読んで(1)、(2)に答えなさい。

秋は夕暮れ。

夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の、寝どころへ行くとて、三つ四つ、
二つ三つなど飛び急ぐさへ^①あはれなり。

まいて、雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。

日入り果てて、風の音、虫の音など、はた^②言ふべきにあらず。

(1) ^①——部「あはれなり」とありますが・・・。

(2) ^②——部「言ふべきにあらず」を・・・。

校正すべき点が2つありますが、見つけられましたでしょうか。

1つは線種の間違いです。本文中は下線が二重線ですが、問いでは傍線（一本線）になっています。

もう1つは本文中の「いとをかし」に波線がありますが、設問がありません。

上記の2つは、1箇所を修正したときにそれに関連・影響を受ける箇所がそのままにされたことが原因と考えられます。

「漢字とルビ」「問題と解答解説」など、1箇所を直したら他にも関連・影響するところがないか、注意をして引き続き作業をお願いいたします。

業務連絡

毎月末には請求書のご提出をお忘れのないようよろしくお願いいたします。

先日、私が咳き込んでいると、小子守熊(オス6ヶ月)が私の木ももとんとたたきにきました。「心配してくれてるのかな。」嬉しかった私ですが、次の瞬間「あむ!」と小子守熊が私のジャージにかみついてきました。どうやらとんとんしてジャージの触り心地に興味を持って口に入れたかったみたいです。



文責：”現実”子守熊